

ようこそ 裏野パーク
へ！

NiOさん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ようこそ 裏野パークへ！

君は初めてここに来たのかな？

じゃあ、ちよつとだけ説明してあげるね。

ここは裏野パーク。

わたしは裏野ラビットのニッケルさん。

そして、このポーズが『スシザ○マイ』のポーズだよ！

あれ、面白くなかった？

まあ、私のことは、気軽に、『ニッケルさん』って、呼んでね。

……ところで君は、何の犯罪者（フレンズ）？

あ、待って待って。

私、当ててみるから。

……もしかしてもしかして。

……『いじめられっ子を自殺させた犯罪者（フレンズ）』でしょ？

目次

↓

ようこそ 裏野パークへ! | 1

廃園になった遊園地のウワサ | 5

UDL (Urano Dream Land)

nd) | 10

ジェットコースターへ行く↓ | 14

アクアツアーへ行く↓ | 19

ミラーハウスへ行く↓ | 23

ドリームキャッスルへ行く↓ | 30

メリーゴーラウンドへ行く↓ | 35

観覧車へ行く↓ | 39

コンティニュー↓ | 45

その建物へ行く↓ | 49

ようこそ 裏野パークへ!

ようこそ 裏野パークへ!

君は初めてここに来たのかな?

じゃあ、ちよつとだけ説明してあげるね。

ここは裏野パーク。

わたしは裏野ラビットのニツケルさん。

そして、このポーズが『スシザ○マイ』のポーズだよ!

あれ、面白くなかった?

まあ、私のことは、気軽に、『ニツケルさん』って、呼んでね。

……ところで君は、何の犯罪者^{フレンズ}?

あ、待つて待つて。

私、当ててみるから。

……もしかしてもしかして、『いじめられっ子を自殺させた犯罪者^{フレンズ}』でしょ?

当たり?

当たり?

……へへへ、なーんてね。

この裏野パークに来れるのは、『いじめられっ子を自殺させた犯罪者』フレックスだけなんだ！

……え？

『家に帰して』だつて？

泣いたつて無駄さ、ここからは出られないよ……つて言いたいところだけど。

それは、君次第かなあ。

この裏野パークには、ちゃあんと『出口』ゴールが存在するんだ。

うん、ニツケルさん、こういうことではウソ吐かないからね。

ホントだよ。

ん、やる気になったみたいだね。

じゃあ、これ、上げる。

《廃園になった遊園地のウワサ》……まあ、裏野ドリームランドの施設紹介つてトコロかなあ。

それぞれの施設ではニツケルさんからの問題が用意されているから、がんばつて正解を見つけてみてね。

せっかくだから、楽しんで『出口』ゴールを目指してもらおうっていう、ニツケルさんからの粋な計らいだよ。

廃園になった遊園地のウワサ

#####

裏野ドリームランドのウワサ、知ってる？

#####

ウワサー 廃園になった理由

あの遊園地には

度々“子どもがいなくなる”って

噂があつたな。

閉園した理由は知らないけどさ、

そんな噂があるようじゃねえ。

#####

ウワサ2 ジェットコースターで謎の事故

ジェットコースターで起こった

事故のこと知ってるか？

「事故があった」とは聞くのに、

どんな事故だったのか誰に聞いても

答えが違うんだ。

#####

ウワサ3 アクアツアアの不気味な生き物

遊園地が営業していたころにも、

アクアツアアで

「謎の生き物の影が見えた」なんて話、何度かありましたね。

それ、今でも見えるらしいですよ。

#####

ウワサ4 ミラーハウスでの入れ替わり

ミラーハウスから出てきたあと

「別人みたいに人が変わった」って人が

何人かいるらしいよ。

なんというか、まるで中身だけが

違うみたいだって……。

#####

ウワサ5 ドリームキャツスルの拷問部屋

ドリームキャツスルには

隠された地下室があつて、

しかも拷問部屋になつてゐるんだとき。

遊園地にあるわけなのに。

だから今度確かめに行つてくるよ。

#####

#####

ウワサ6 廻るメリーゴーラウンド

メリーゴーラウンドが勝手に

廻つてゐることがあるらしいよ。

誰も乗つていないのに。

明かりが灯つてゐるのは

とても綺麗らしいんだけど、ね。

#####

#####

ウワサ7 観覧車から聴こえる声

廃園になった遊園地、

人なんか誰もいないはずなのに……

観覧車の近くを廻ると声がするらしい。

小さい声で、

『出して……』って。

く夏のホラー2017 悪夢の遊園地へようこそ！ より抜粋
く

U D L (U r a n o D r e a m L a n d)

「わ、わっけわかんねー!」

あなたは大声を上げると、裏野ラビットのニッケルさんから逃げ出しました。

よーいどん!で振りかぶられた斧は、先ほどまであなたがいた地面に、深々と突き刺さっています。

大急ぎで、その建物を抜け出して。

ふと上を見上げると、いつの間にか空は真っ黒になっています。

そのまま辺りへ目を移すと、眩いばかりの電飾が満ち満ちていました。

あなたは、その風景に少しだけ見覚えがありました。

その昔、一度だけいった遊園地。

裏野ドリームランドにそっくりだったのです!

「ぎゃああああああ!」

「ぐえええええええ!」

突然、周りから悲鳴が聞こえました。

よくよく見ると、自分の他にも少年や少女が遊園地内を走り回っていたのです。

彼ら、彼女らも、いわゆる犯罪者^{フレンジズ}……『いじめられっ子を自殺させた犯罪者^{フレンジズ}』、なのでしょうか。

そして、そんな彼ら、彼女らに向かつて。

「待て待て〜」

「捕まえた〜」

ゆる〜い掛け声とともに、複数いる裏野ラビットのニツケルさんが、次々と凶器を振り下ろしていきます。

「ぎゃあああああ〜！」

「ぐええええええ〜！」

おや？

彼ら、彼女らは真つ二つになったにもかかわらず、未だに苦痛を伴う悲鳴を上げていました。

あなたは思わずその光景から目を逸らすと。

「安いよ安いよ〜」

「活きがいいよ〜」

辺りには、煌々とランプに照らされた露店が広がっていました。

露天商はもちろん、裏野ラビットのニツケルさんです。

向こうにまで、いくつもいくつも、見えました。

鏡と鏡を向かい合わせた様な風景に、あなたは言葉を失います。

「し……施設の中に入るしか、ない、のか……」

体力も限界になったあなたは、他に方法が無いと判断し、配布された資料……『廃園になった遊園地のウワサ』に目を通します。

「待って待って」

遠くから、裏野ラビットのニツケルさんの声が聞こえました。

もう、あまり時間はありません！

あなたは。

ジェットコースターへ行く↓

アクアツアーへ行く↓

ミラーハウスへ行く↓

ドリームキャッスルへ行く↓

メリーゴーラウンドへ行く↓

観覧車へ行く↓

ジエットコースターへ行く↓

カンカンカン、とあなたが金属の階段を走って上ると、そこにはジエットコースター乗り場の入り口がありました。

「ひっー」

突然目の前に裏野ラビットのニッケルさんが現れ、驚いたあなたですが。

よくよく見ると、それはただの看板、でした。

おどけたポーズで

『僕より身長が高い子は、進んでね！』

と書いてあります。

身長制限は100cm、くらいでしょうか。

「……つぎつげんなよ!!」

あなたは看板を派手に蹴飛ばすと、更に上へと向かいます。

ジエットコースターがあるのは階段を4つ上った先です。

その手前に現れる裏野ラビットのニッケルさんの看板に、あなたは再度蹴りを入れようとして、思いとどまります。

なぜなら、その看板には……問題が、書いてあったのですから。

『死なない席が、一個だけあるよ。』

どここだ？』

裏野ラビットのニッケルさんは、先ほどと全く同じおどけたポーズでそんな台詞を書かれていきます。

「……死なない、席？」

ふと、横を見ると。

ジェットコースターが、しゅんしゅんと音を立てて出発を待っていました。

席の数は全部で12。

3人横並びで4列設定の、少し珍しいタイプです。

恐る恐るジェットコースターに近づくとあなた。

こんこん、とジェットコースターを数箇所叩いて見ますが。

もちろん部位によって材料が違うということは無いみたいです。

……ということは、問題に、何か意味があるのでしよう。

「しなない……471の、どれか？」

ジェットコースターは9には止まれない、とかいうギャグか？」

いろいろな可能性を考えますが、コレといった結論は出ません。

そして同時に。

ジェットコースターの席の、床が抜けました。

「う、うお!？」

思わず、胸元のバーを両手で掴んで、ぶら下がった状態になるあなた。

危ない、危ない。

あと少し気づくのが遅れたら、5階の高さから地面に真つ逆さま、でした。

「た、助かった……。

……え？」

そして。

その状態で、進みだす、ジェットコースター。

ここであなたは、やっと、ジェットコースターでのウワサを思い出します。

『ウワサ2 ジェットコースターで謎の事故

ジェットコースターで起こった

事故のこと知ってるか？

「事故があった」とは聞くのに、

どんな事故だったのか誰に聞いても

答えが違うんだ』

どんな事故だったのか誰に聞いても、答えが違

……理由は、簡単。

落下地点が違うから、いろんな事故に、なっちゃうんです。

……その人の、握力次第で。

コンティニューへ↓

アクアツアーへ行く↓

木の柵でぐにやぐにやと区切られた順路を、無視して突っ切って行くあなた。はあはあと息を切らせていると、つん、と、塩素の匂いがしました。

横を振り向くと、アクアツアーのボートがあります。

そう、ここはアクアツアーの入り口。

あなたは悩んだ末、アクアツアーを選んだのです。

あなたは、その昔、裏野ドリームランドへ行った時に乗ったアクアツアーを、思い出していました。

なんとということはありません。

アクアツアーとは名ばかりで、出てくるのは全部、機械の魚やカラクリ系のみ。

ボートに乗っているとそれらがタイミングよくスローモーションで飛び上がるので、幼いあなたの記憶にも残っていたようでした。

……『茶番だ』という意味で。

ふと、横を見ると。

そこには、看板が、ありました。

『アクアツアーに現れる、謎の生き物。』

その謎の生き物の、嫌いな食べ物、な〜んだ?』

裏野ラビットのニツケルさんが、おどけたポーズでそんな台詞を書かれてしゃべっいます。

看板になつても、憎たらしい格好ですね。

看板の前には、いくつかの食材が、おいてありました。

『ピーマン』、『にんじん』、『大根』、『さば』、『牛肉』。

……ここにあるもののどれかを持って、ボートに乗り込め、ということでしょうか。

そして、そのどれかを持っていれば、『謎の生き物』に襲われない、ということでしょうか。

「……はっ。

だったら、答えは簡単だな」

あなたは、ハン、と鼻を鳴らすと。

それらの食材……全てを持ち出しました。

「別に、『一個だけ持って行け』なんて指示は、無いんだからな」

笑いながら、ボートに乗り込むあなた。

しばらくして、落下防止用……いえ、逃亡防止用のバーが、降りました。

……ちなみに、問題の答えは、『人間』。

別に、『この中に正解がある』なんて指示は、無いのですから、ね。そうです。

『謎の生き物』は、『人間』が、大の苦手。だけど、思い出してください。アクアツアーの、ウワサを。

『ウワサ3 アクアツアーの不気味な生き物
遊園地が営業していたころにも、
アクアツアーで

「謎の生き物の影が見えた」なんて
話が何度かありましたね。

それ、今でも見えるらしいですよ』

……さて。

塩素いっぱい、まともに生き物の住めないこの世界に住む『謎の生き物』は、何を主食にしているんでしよう。

……そうです。

……ちよつとくらい味が悪くても、我慢して食べるんですね。
コンティニューへ↓

ミラーハウスへ行く↓

「く……く……、か！」

苦々しい声を上げて、ミラーハウスへと飛び込んだあなた。そのまま、ずるずると座り込んで。

はあ、はあ、と、息を整えています。

……長い時間走っていたから、当然といえば、当然でしょう。

呼吸が整つてくると、次第に周囲が気になってきたあなた。

……奥の部屋から、何やら軽快な音楽が鳴り響いています。

「……ミラーハウス、か。」

……ていうか、このまま、ここに、ずっといればいいんじゃないか？

そんなことを呟いたあなたですが、すぐに自分の考えを否定します。

何しろ、食べ物もなにも無い状態。

ここで座り込んでいても、餓死の未来しかありません。

先に進むしか、道は無いのです！

そういうえば、昔、ミラーハウスに入ったことがあったなあ、とあなたは思い出しました。

当時の自分にとっては、まさに迷宮。

難攻不落の、大迷路だったことを思い出したのです。

よたよたと、ミラーハウスの入り口へ向かっていると。

看板を、見つけました。

『本物の自分は、どくれだ？』

看板に描かれた裏野ラビットのニツケルさんは、おどけたポーズでそんな台詞を書かれていきます。

本物の、自分？

何を、言っているのでしょうか。

問題を横目に、ミラーハウスへ足を踏み入れると。

「ああ………なんというか………懐かしいなあ」

いつか来た、難攻不落の迷路が、そこにあつたのです。

「……まあ、今なら、クリアも余裕でしょ」

そういうとあなたは、右手を伸ばして、右手の鏡に手を付けました。

「こーやって、壁に手を付けて進んでいけば……って、うお!?」

まるで、泥沼のように、沈み込む鏡。

驚いて、思わず手を引つ込めたあなたですが。

「……これが、怪異、ってやつか」

意外と物分り良く、現状を把握しています。

「……っち。

つつつても、こーやって進むしか、ないからな……」

そして、観念したかのように、再度右隣の壁に手を突っ込むと、鏡の迷宮へ、足を踏み入れるのです。

#####

「はあ、はあ……な、なんだ、こーこは!?!」

あなたは、耐え切れずに声を上げます。
それもそのはず。

「ゴールがどこにも、無いのですから！」

「別の、ゴールが、あるってこと、か？」

「なんとなく鏡に向かいながら、そんなことを呟くあなたは、あることに気がつきました。」

「……なん……だ？」

「この鏡の私……鼻の頭に、黒子がある」

ひよい、と横を見るあなた。

「……なんだ……この鏡の私は……眼帯を付けている。」

……うわ、何で気がつかなかったんだ」

あなたは周りを見渡します。

鏡に映るあなたは、全く同じようで……どこかが、違う、みたいですよ。

そこで、思い出す、入り口の、問題。

『本物の自分は、どくれだ？』

「……つまり、本物と全く同じ鏡を見つければ、良いってこと……なのか？」

あなたは、やっと、理解したかのように、再度ミラーハウスの中へと足を進めるのでした。

#####

「……右13の鏡か、左42の鏡……どっちか……だな」

鏡を覗き込みながら、あなたは眩きます。

あれからすべての鏡をチェックして。

自分と同じ格好をしている鏡を2つ、見つけたのでした。

しかし、見つけた2つは、本当に全く同じで。

違いを見つけることが、できなかつたのです。

「……もう、これ以上は、仕方がないわな。」

勘で選ぼう」

そう呟くと、あなたは、正解と思う鏡のひとつに、手をずぶずぶと、飲み込ませていくのでした。

ちなみに。

『本物の自分は、どつれだ？』

答えは、『もちろん、あなた』。

鏡の中に、本物がいるわけがありません！

因みに、鏡の中のあなたとは、
虫歯の位置が、違うのでした。

「ぎゅ、ぎゅ、ぎゅいいいい!!?」

突然、ばきばきばき、という音が、あなたの手の先から……鏡に突っ込んだ手の先から、聞こえてきます。

……まるで、シユレツダーのような、音です。

激痛とともに、鏡に飲み込まれていく右腕。

そのまま、抵抗していた両足が飲み込まれて行き。

……新たな激痛が、追加されていきます。

静かに、あなたは思いました。

『ウワサ4 ミラーハウスでの入れ替わり

ミラーハウスから出てきたあと

「別人みたいに人が変わった」って人が

何人かいるらしいよ。

「なんというか、まるで中身だけが
違う見たいだつて……」

入れ替わりなのか、何なのか知りませんが。
全身をシュレッダーにかけられて。
人格が変わらない人はいないだろう、と。
コンティニューへ↓

ドリームキャツスルへ行く↓

「さ、さすがにここは、大丈夫だろう……!」

息を整えながら、あなたは一人ごちます。

場所は、ドリームキャツスル。

裏野ドリームランドの中央に位置する、重要なお城です。

夜になると、エレクトリカルなパレードが、お城から出発します。

……そんな城の地下に、拷問部屋？

あるわけ、ないと、思うのですが。

「……まあ、調べなきや、いけないんだろう、なあ……」

調子を戻したあなたは、一度深呼吸をすると。

……ドリームキャツスルの奥へと、足を運ぶのでした。

#####

ドリームキャツスルの奥には。

ウワサ通り、拷問部屋が、ありました。

「おいおい……マジか……よ……」

あなたは、裏野ドリームランドのウワサを、思い出します。

『ウワサ5 ドリームキャッスルの拷問部屋

ドリームキャッスルには

隠された地下室があつて、

しかも拷問部屋になつてゐるんだとき。

遊園地にあるわけではないのに。

だから今度確かめに行つてくるよ』

ふざけるな、完全に死亡フラグじゃねえか!!

ひよい、と横を見ると、裏野ラビットのニッケルさんの看板が、ありました。

『拷問器具の中で、ニセモノが一つあります。

どれでしょう?』

ニッケルさんは、おどけたポーズでそんな台詞を書かれてしゃべっいます。

「に……ニセモノ?」

あなたは、ゆつくりと拷問部屋を眺めます。

拷問器具の横には、丁寧に、名前まで書いてありました。

『アイアン・メイデン』

『フアラリスの雄牛』

『ヘッドクラッシャー』

『苦悶の梨』

『電気椅子』

……正直、使い道がわからないものも、あります。

しばらく、呆然とそれらを眺めていると。

「さあ、どれにする？」

後ろから、そんな、声が聞こえてきました。

振り向くと、そこにいるのは、当たり前のように、裏野ラビットのニッケルさん、なのでした。

……ニセモノを、選ぶ。

……正直、遠目では、どれが正解かわかりません。

どれもこれも、禍々しい光沢を放っています。
放っています……が。

「……じゃあ、これに、するよ」

あなたは、観念して、答えます。

理由はありません、なんとなく、です。

その答えに対して。

「おお、すごい！

正解、だよ!!」

裏野ラビットのニツケルさんは、うれしそうに手を叩きました。

答えがあたっていると思っていなかったあなたは、驚いた顔をして、その後、笑みを浮かべます。

「そうそう、そうなんだよ。」

実は、君の答えた拷問器具は、『歴史的な遺産』とか何とか言われて、ホンモノを、貸し出して貰えなかったんだよね」

裏野ラビットのニツケルさんは、解説を加えていきます。

「だから、君の答えた拷問器具は、ただの、レプリカ、なんだ」
ぎい、と、拷問器具が、音を立てました。

顔を引き攣らせたあなたに、裏野ラビットのニッケルさんは、言葉を続けます。
「ああ、大丈夫だよ。

レプリカには違いはないけど。

本物に負けないような、素晴らしい出来栄え、だからね」
コンティニューへ↓

メリーゴーランドへ行く↓

「と、とりあえず、ここならー」

あなたが飛び込んだ先は、メリーゴーランド、でした。
ぶっ倒れた状態で、あなたは、思い出します。

『ウワサ6 廻るメリーゴーランド

メリーゴーランドが勝手に

廻っていることがあるらしいよ。

誰も乗っていないのに。

明かりが灯っているのは

とても綺麗らしいんだけど、ね』

裏野ドリームランドの七不思議の中でも、なんとなく、緩そうなの怪異。

要は、光って綺麗なだけ……。

……だよ、ね？

あなたは、呼吸を整えると、メリーゴーラウンドに近づいていきます。そして、その途中で、看板を見つけたのでした。

『にじの色の中で、無いものは、どれだ？』

裏野ラビットのニッケルさんの看板が、おどけたポーズでそんな台詞を書かれていま
す。

辺りを見渡すと、メリーゴーラウンドの馬には、多くの色が付けられています。

その色は、赤橙黄緑青藍紫の七色を、超えていました。

「……いや、待てよ」

あなたは、考えます。

虹の色は、実は、世界で違います。

5色で表される国もあれば、20色を超える国もあります。

もちろん、それら全てを覚えているわけではありませんが。

多分、絶対無い色というのは、分かります。

「……白か、黒。」

……どちらがより無いか、と言われたら……多分、黒、だよ、なあ……」

あなたはそう眩くと。

黒い馬のメリーゴーラウンドに、跨るのです。

静かに、鳴り出す軽快な音。

メリーゴーラウンドが、廻り出したのです。

そのスピードは、次第に速度を増し。

「……!?!」

ぎゅんぎゅん、と、どこまでも加速していくメリーゴーラウンド。

もはや、その時速は300kmを超えていました。

なぜか両手、両足がベタリとメリーゴーラウンドに付いているせいで、動くことすら出来ません。

(い、息が出来ない……!?!)

首が、逆側に、のけぞるように跳ね上げられます。

胴体が、べこんと、風圧でへこみます。

「がばばあばばばばばばばばば」

視界が、赤くにじみます。

両目から、出血を始めたのです。

更に腹部からは、遠心力に負けた腸が、ばちん、とはじけて、ずるずるずるずる！と投げ出されていきます。

『にじの色の中で、無いものは、どくれだ？』

二次の色。

それは、むげんだい256色。

つまり、そんなものは無いので。

正解は、どこにも座らない。

そうすれば、例えメリーゴーラウンドは廻りだしたとしても、あなたは投げ出される形でその状態から逃れることが、出来たでしょう。

ふふふ。

……まあ、座らないと、メリーゴーラウンドは、動き出さないのですが。
コンティニューへ↓

観覧車へ行く↓

「ど、ど、どういうこと、なんだよおおお!!」

声を上げながら、あなたが入った施設は……観覧車、でした。

一生懸命現状を整理しようと思いますが、当然、出来ません。

頭の中がぐちゃぐちゃのまま、ふと見上げると、どこまでも高く、その観覧車は見えました。

目の前には、観覧車に乗るように、裏野ラビットのニッケルさんが、手招きをしています。

「……これに、乗れば、良いんだね？」

あなたの言葉に、ニッケルさんは、答えます。

「これに乗れば助かるって言う訳じゃあ無いけど。

ゴールでできる可能性は、あるよ？」

「……充分」

そう呟くと、あなたは、観覧車に、乗り込むのでした。

#####

観覧車は、どンドンと、その高度を上げていきます。

窓を眺めると、驚くことに。

どこまでも広がる、裏野ドリームランドを眺めることが、出来たのでした。

それは、冗談でもなく、地平線いっぱい広がる、遊園地。

走って出口を目指すことは無理だろう、と、あなたは思いました。

ふと、目の前の窓を見ると。

そこには、小さな看板がありました。

『いま、何時?..』

裏野ラビットのニッケルさんが、おどけたポーズでそんな台詞を書かれてしゃべっいます。

看板の右側には、アナログ時計を思わせる、かわいらしい絵が。

左側には、同じ縮尺で観覧車が描かれていました。

何を言っているのか。

少し考えて、あなたは気づきます。

観覧車の数は、12。

時計の示す数も、12。

観覧車の示す数字が、時計の示す数字の、答え、では、ないか？

バタン!!

観覧車の、扉が開きました。

扉から外をのぞくと、頂上に近い位置……時計で言うと、3時くらいの位置に、観覧車が、います。

……もはや、疑う必要も、ありません。

出されたなぞなぞである……つまり。

『いま、何時？』の、答えである、観覧車の問題は、その正解と思われる時間に、ここから飛び降りろ、というもの、なのです！

真つ暗な空を眺めて、予想をつけるあなた。

「北極星と、月の位置。

あと、夏の星座の配置からして……」
そして。

12時半過ぎで、13時の前。

なんとなくではありますが、そう、予想したあなたは。

観覧車の、一番高い位置の、近く。

そこに観覧車が移動すると。

扉の向こうへ。

……ゆつくりと、飛び降りたの、でした。

#####

「うん、凄いや！」

12時で正解だね」

遠くから観覧車を眺めながら、裏野ラビットのニッケルさんは、独り言を言っています。

「……それで……それが、なに？」

……思い出されるのは、この遊園地の、ウワサ。

『ウワサ7 観覧車から聴こえる声

廃園になった遊園地、

人なんか誰もいないはずなのに……

観覧車の近くを廻ると声でするらしい。

小さい声で、

『出して……』って』

「全く、言い掛かりも良いところだよ。」

裏野ドリームランドは、こんなにもオープンなのに!!」

気味の悪い笑顔で、裏野ラビットのニッケルさんは、声を上げました。

そして、地上高くから落下してくる人たちを見ながら。

「でも、なんだか最近、落ちてくる人が多いんだよね。」

「なんでか、知らないけど」

と、他人事のように笑いました。

コンティニューへ↓

コンティニュー↓

「はっ!？」

ふと気がつくのと、あなたは、自分の部屋の、ベッドから飛び起きていました。

……ふう、ふう、と声をあげるあなた。

先程の、あまりにもリアルすぎる夢に、未だ意識を奪われているようです。

死ぬ間際の激痛は、とても夢だからといって説明できるものではありませんでした。

「……ツ痛……う？」

ふと、左手に痛みを覚えたあなた。

そこには。

「……なんだ、この入れ墨……入れた覚え、ないぞ？」

左手小指の付け根に、長方形の入れ墨が、ありました。

#####

ようこそ 裏野パークへ！

君は初めてここに来たのかな？

あれ、2回目？

じゃあ、ちよつとだけ説明してあげるね。

ここは裏野パーク。

わたしは裏野ラビットのニツケルさん。

そして、このポーズが『スシザ○マイ』のポーズだよ！

あれ、2回目も、面白くなかった？

まあ、私のことは、気軽に、『ニツケルさん』って、呼んでね。

……え？

……ははは、あれで終わりだと、思っていたの？

まさかあ。

浦野パークは、夢の世界！

君が眠るたび、何度でも来ることが出来るよ！

それじゃあ、準備はいいかな？

はじめるよ？

よーい。

どん！

その建物へ行く↓

「もう、無理、だろ……」

あなたは、弱音をはいています。

無理ありません。

あれから数か月、眠った回数だけ殺されているのですから！

「ジェットコースターへ行った！

アクアツアーへも行った！

ミラーハウスへも行った！

ドリームキャッスルへも行った！

メリーゴーラウンドへも行った！

観覧車へも行った！

どこにも、ゴールなんて、ないじゃないか！」

フラフラの頭で、大声を上げたあなたは、ふと、思い付きます。

「……ましてよ。」

……あの建物は、どうなんだ？」

思い出すのは、裏野ドリームランド初日。

チュートリアルのような説明が裏野ラビットのニッケルさんからあった、あの建物。今まで気にしていませんでしたが。

裏野ラビットのニッケルさんは、アトラクションの中に出口があるとは、一言も言っていないませんでした！

そこがゴールとは限りませんが。

試す価値は、ありそうです。

あなたは、一人うなずくと、その建物を、探すのでした。

#####

「……ん？」

どうしたの？

忘れ物？」

建物の中には、いつかのように、裏野ラビットのニッケルさんがいました。

ふと、回りを見渡すと。

夥しい数の遺影が、飾られています。

「……これは、いじめで自殺した子供達の写真だよ。

この子は、中学生。

こっちは、まだ小学生だ」

悲しそうに、裏野ラビットのニツケルさんは指を指して説明します。

呆然と写真を眺めているあなたは。

……1つの写真に、気が付きました。

それは、見慣れた、顔。

何度も馬鹿にして、罵倒して、殴り付けた、顔。

はにかんだそのモノクロ写真に、あなたは、土下座します。

「(うん)うん、ごめんなさい！」

わ、私が、悪かったです!!」

それは、自然に行われた行為でした。

裏野ドリームランドで何度も死ぬ目にあつて。

やつと、相手がどれ程傷ついていたのか気付いたのでしよう。

「……忘れ物、見つかったみたい、だね」

そばにいた裏野ラビットのニツケルさんは、そう言つて、パチン、と切符の様なものを切りました。

「そう、それがゴール。」

そして、スタートでもある。

君は、その気持ちをも、一生持ち続けなくちゃならない」

そう言いながら、裏野ラビットのニツケルさんが手渡したのは。

……『裏野ドリームランド優待券』に『来園済』の刻印が押された、チケット、でした。

呆気にとられるあなたに。

裏野ラビットのニツケルさんは、こう、言いました。

「裏野ドリームランド攻略、おめでとう。」

……それじゃあ、また、どこかで」



「はっ!？」

ふと気がつくのと、あなたは、自分の部屋の、ベッドから飛び起きていました。

……ふう、ふう、と声をあげるあなた。

先程の、あまりにもリアルすぎる夢に、未だ意識を奪われているようです。

「……ッ痛……う？」

ふと、左手に痛みを覚えたあなた。

そこには。

無くなつた小指が、ありました。

左手小指の付け根に刻まれた、《浦野ドリームランド優待券》という文字のことも一緒に考えあわせれば。

《来園済》の切符を切られたのだろう、と、予想がつかしました。

「ゴール、か……」

自分の指が無くなったにも拘らず、あなたは静かに声を出します。

このくらいの罰は、当たり前、と、思ったのかもしれませんが。

裏野ドリームランドに来る前とは、偉い違いですね。

「私が、悪かった。

ちゃんと、贖罪、しよう。

怒られても、罵倒されても、もう一度、お線香をあげに行こう」

ぼつり、ぼつりと呟いたあなたですが。

「でも、その前に……これだけは、許して、もらおう……」

そう言葉を続けて。

数カ月ぶりの、安眠を、貪ることにしたのでした。

#####

ようこそ 裏野パークへ！

やあ、さつきぶり！

ここは裏野パーク。

わたしは裏野ラビットのニッケルさん。

そして、このポーズが『スシザ○マイ』のポーズだよ！

あれ、やっぱり面白くなかった？

まあ、私のことは、気軽に、『ニッケルさん』って、呼んでね。

ん？

良く解らないって顔してるね。

じゃあ、ちよつとだけ説明してあげる。

裏野パークは、裏野ドリームランドや、裏野ドリームシー、裏野スタジオジャパン、裏

野ハイランドや裏野スパランド、などなど！

たつきさくんある遊園地の総称なんだ。

ほら、自分の両手両足、ちゃんと確認してみて？

全部の指に、チケットの入れ墨、あるでしょ？

さあて。

ここは、裏野パークの施設の1つ、裏野レゴ？ンド。

ここにも楽しいアトラクションがあるから、楽しんでいってね。

……え？

ゴールじゃなかったのか、って？

あはは。

だから、言っただじやん。

『そして、スタートでもある』って。

うわ、良い顔！

その顔を見るために、私は裏野ラビットのニッケルさんをやっていると言っても過言ではないね。

……ん？

ああ、それは、もちろんだよ。

この裏野パークには、ちゃあんと『出口』^{ゴール}が存在する。

うん、ニッケルさん、こういうことではウソ吐かないからね。

ホントだよ。

……うふふ、流石に気付いたかな？

裏野パークから脱出する方法は、ただ一つ。

君の知り合いが、イジメの連鎖から脱出した方法と、おんなじさ。

……あのねえ。

贖罪の気持ちを持つなんて、当ツたり前なの。

その上で、君が、ちゃあんと、死んでくれたら、きっと亡くなった子のご家族も、多少溜飲が下がるつてもものなんだよ。

だから君も、ちゃあんと。

……精神が壊れるか、死ぬか、しようね？

……それじゃあ、準備はいいかな？

はじめるよ？

よーい。

どん!